

山田議員

福祉サービスの充実と
トラブル防止について

問他自治体の良い事例を参考に、福祉サービスを充実すべき。

- ①就学援助申請で、民生委員の確認をやめて、学校と行政で対応すれば良いのではないか。
- ②他市では国保の短期保険証に特別な表示をしていない。勝山市も改善すべきではないか。
- ③介護認定者の住宅改修はケガ防止で医療費抑制につながる。他市のように独自助成をすべき。
- ④市が業者に直接助成金を支払う制度を実施すべき。
- ⑤厚労省は国保の一部負担金の免除を求めている。市の減免条例を見直すべき。
- ⑥トラブル防止のため、制度マニュアルやトラブル事例集を整備して研修すべき。

答①市において所得が確認できる場合は、民生委員に負担のかわらないように今後、申請方法の見直しを検討していく。

②他市の状況をかんがみ、特別な表示はしないように対応していく。

③独自の助成制度の取り組みについて、更に調査・研究していく。



その他の質問
管内閣の発足と政治に求められている課題について
農業公社、地場産センター、観光協会などの連携と
新法人移行への支援について
国や県の直轄事業及び諸団体の市民サービス事業の
利用促進について
えちぜん鉄道の市街地への乗り入れと総合計画につ
いて
観光への取り組みについて

- ④受領委任払い制度が実施できないか、今後研究していく。
- ⑤国から基準が示されたら、適切な運用ができるよう対処していく。
- ⑥介護支援専門員等に制度を周知するため「ケアマネジャーの手引き」を作成し、なるべく早い時期にトラブルの事例等について紹介しながら説明していく。また市広報等、機会を捉えて制度の周知に努めたい。

北川議員

いのちを守る予防ワクチ
ンの推進と助成について

問「子宮頸がんワクチン」「ヒブワクチン」「肺炎球菌ワクチン」は、現在任意接種となっている。全額自己負担で、周知もまだ十分とは言えず、接種が広がらないことが危ぶまれている。

これらの予防ワクチンの推進と助成について市の見解を伺う。

答任意予防接種は現在10種類以上あり、ご質問の公費助成については、国の取り組みを注視するとともに、県内の動向も参考にしながら検討したい。

視覚障がい者の情報バ
リアフリーの推進について

問当市においても、視覚障がい者の中で点字が読める人はわずか。

納税通知書・年金・保険など紙媒体の生活情報は、自立した生活と社会参加には欠かせない情報である。来年には音声コードの読み上げ機能の付いた携帯電話も登場すると聞いている。県の予算を積極的に活用して、「音声コート」「音声読み上げ機器」を導入するお考えはないか伺う。



その他の質問
うつ病対策について
市民を元気にしていく福祉について
米粉利用の推進について

答読み取り機器については現在、視覚障がい者に対し助成を行ってあり、既に利用されている方もおられる。今後も利用者の意見を伺う中で、整備にあたっていきたい。一方、音声コードについては、使用の研修を受けないと有効活用ができないようである。この研修は、福井県内での実績もないため、職員研修を必要に応じて実施していきたいと考えている。